

OM 探訪

第 10 回 Rob Wagner 氏

中川 弘夫

“この趣味を 57 年も続けている最大の理由は、ラジオの持つ技術的な側面に魅了されているからでしょう” ブログや Facebook、YouTube その他の手段を通じて、自身の有する知識や情報を精力的に発信し続ける、ベテラン DXer の半生を追う。



Rob Wagner 氏近影

(2016 年 シャックにて)

OM 探訪第 10 回は、昨年 9 月にメルボルンを旅行した際に訪問した Rob Wagner 氏にご登壇頂くことになった。氏にお願いした理由は、今号の別記事「オーストラリアで BCL」と重複するが、氏がオーストラリアで最も実力がありかつアクティブな DXer の一人だからである。氏の Facebook やブログから、ポジティブでバランスのとれた人間性を感じ取ることが出来たが、実際に会ってみてその期待が裏切られることはなく、大変魅力的な方であった。それ

だけに一度会っただけで関係が途切れてしまうとしたら残念であり、この関係を続けていきたかったし、もっと深く氏を知りたいと思った。同時にインタビューを通して氏のみならず、DX 大国オーストラリアの過去と現状を理解することが出来るのではないかと考えたのもある。幸運にも氏にはインタビューを快諾頂くことが出来、Zoom での再会が実現することになった。

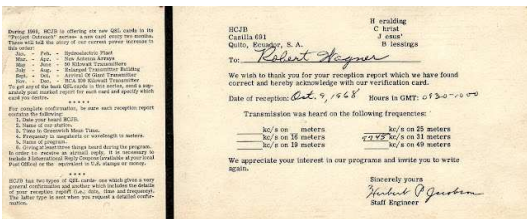


盟友宮さんと Zoom インタビューに臨む

Rob 氏はメルボルンで生まれ、以来ずっとビクトリア州在住である。1954 年 5 月生まれであり、私より 10 歳年上になる。氏が趣味で外国のラジオを聴き始めたのは 14 歳の時であった。リビングにあった Stromberg Carlson のコンソールラジオで SW バンドが聴けることに、しかも様々な言語や民族音楽が聞こえることに気づいたのである。それは簡単な一本のワイヤーアンテナを接続しただけであった。氏が最初にキャッチしたのはエクアドルのキットにある HCJB だった。氏はここに受信報告を送ったが、国際返信切手 (IRC) を知らなかったため、QSL を取得するのに船便で 5 ヶ月間掛かったという。

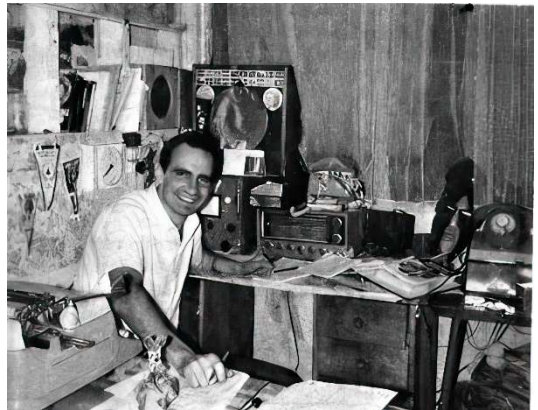


Phase # 5 - Arrival Of Giant Transmitters
The big day came on Oct. 8, 1967 when three RCA 100,000 watt transmitters and a prototype of the same, arrived by a special airlift involving two chartered cargo planes.



氏の初めての QSL : HCJB (1968 年)

氏はその後、1969 年に New Zealand Radio DX League (NZRDXL) に参加し、更にその数ヶ月後に Australian Radio DX Club (ARDXC) に招待されることになった。SWL としての氏の実力を高めてくれた最大の師は、氏より 13 歳年上の Bob Padula 氏であった。Bob 氏は Rob 氏から数キロ離れたところに住んでおり、短波と中波の受信について多くのことを教えてくれた。特に Bob 氏は電波伝搬に関する深い知識を持っており、卓上スタンドに設置した回転する地球儀を使って Rob 氏に伝搬の実際を教えてくれた。二人は時々受信機とたくさんのアンテナワイヤーを持参して、ビクトリア州の海岸や田舎への DX 遠征に出掛けたが、Rob 氏はここでも非常に沢山のことを学んだという。そうして電波伝搬は今でも Rob 氏の最も大きな関心事となっている。



氏の DX の師 Bob Padula 氏 (1971 年)

Rob 氏が SWL に最も熱心だったのは 1970 年代、特に 1971~1973 年のように見受けられる。実際氏のブログに掲載されている QSL は、この時代のものが最も多い。記憶に残る珍しい受信について尋ねると、氏は

南極マクマードのアメリカ軍無線 (AFAN)
(6012kHz)、ティモール国営ラジオ放送



南極マクマード基地にあった AFAN の QSL

(3668kHz)、コモロ諸島モロニの ORTF
(3331kHz)、ジブチ ORTF (4780kHz)、
そしてアイスランド放送 (12175kHz) を挙
げてくれた。また当時 60mb に出ていたア
ンゴラの Radio Clube do Huambo
(5060kHz) などは、常に素晴らしい音楽
を流していた。もう一つの特別な QSL は、
プノンペン の秘密放送局であるカンプチ
ア人民の声 (Voice of the People of
Kampuchea) から 11940kHz で送られてき
たものであった。

RADIO THE VOICE OF THE
PEOPLE OF KAMPUCHEA

PEOPLE'S REPUBLIC OF KAMPUCHEA
INDEPENDENCE- PEACE- HAPPINESS

Phnom Penh, 12th March 1981

TO Mr. ROBERT J. WAGNER
10 IRAMOO STREET
BALWYN,
VICTORIA, 3103,
AUSTRALIA

Dear colleague,

We are very glad to acknowledge receipt of
your letter with a reception report on one of our
foreign broadcasts in English on December 19th, 1980
on the frequency 11940 khz from 1200 to 1220 hours GMT.

The details in the report fully with our log.
Many thanks for your interest in our Radio
and your kind and warm feelings towards our people .

We have put your name in our mailing list and
are sending herewith the program schedule for our
foreign broadcasts so that you can tune in to our Radio
more easily .

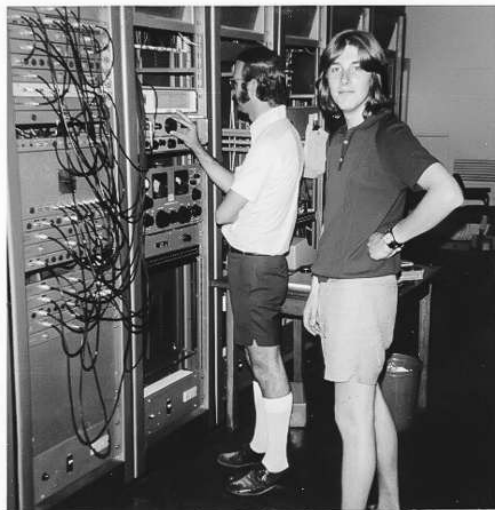
Your further remarks or suggestions about our
programs would be highly appreciated .

With all our best wishes, we remain ,

Yours sincerely,

カンプチア人民の声の QSL

氏は 1970 年代から 80 年代にかけて、
ARDXC や Australian DX News (ADXN)
の編集者や委員として活躍し、ARDXC
National Convention を含む多くのイベ
ントを企画運営した。また、1970 年代半ばに
は SWL だけでなく CB 無線にも強い関心
を持ち、更にその関心はアマチュア無線に
移り、上級免許を取得してのめり込んでい
った。



若き日の Rob 氏

ところで、1970 年代の日本の BCL ブー
ムを知っていたかと尋ねると、氏は「知
っていた」と回答した。氏は日本でこの趣味
がどれほど人気があったかを目の当たり
にしていたのである。ARDXC 本部には定
期的に日本の BCL 雑誌が届き、当時氏は
日本の BCL に関する記事やニュースを楽
しむために日本語が理解出来たらいいの
に、と思っていたそうである。氏を含むメ
ンバーは常に新しい受信機の広告やレビ
ューをチェックしていた。また当時、
ARDXC の会員で英語を話す日本人 DXer
も在籍していた。

RX 歴についてお尋ねしたところ、初期のころはラジオ修理工であった叔父から真空管ラジオを何台か貰って使ったそうである。その後は Lafayette HA 230、



氏の初期の頃の RX : Lafayette HA 230

Eddystone EC10、Panasonic DR-49 を使用。そして近年では、移動運用に便利な Yaesu FRG-100。また、Kenwood R-5000 と Yaesu FRG-7 もレストアして所有しており、これらは現在問題なく動作しているそうである。現在氏のメイン受信機は Icom IC-701、Yaesu FTDX-3000、Kenwood TS-2000 といったアマチュア無線機で、短波放送受信にも使用している。屋外での受信には Sangean ATS-909 と Tecsun PL-680 も使用しているが、これらはロングワイヤーアンテナで非常に良好なパフォーマンスを発揮している。

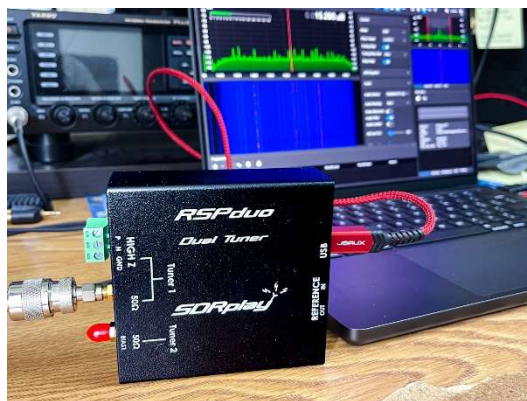


Yaesu FRG-7 と Kenwood R-5000



Yaesu FTDX-3000

ちなみに SDR を導入する予定はないかと尋ねたところ、氏はその質問に触発されたのか、インタビュー直前に SDRplay と SDRconnect を購入した。氏は Windows ではなく Macintosh を使用しているため、SDRplay は SDR を使用する有効な選択肢である。実際インタビューの場では、画面を通じてその新しい SDRplay を見せてくれた。



氏の最新の RX : SDRplay RSPduo

さてここで職業や家族など、趣味以外での氏の人生についても少し触れておこう。氏は 1976 年にメルボルン大学を卒業し、教職免許 (Higher Certificate in Teaching) と音楽教育学士号を取得して音楽教師になった。以降 45 年間、K-12 レベルスクールで教鞭を取った他、エルサム・カレッジでは音楽ディレクターを務め、更にプロの

音楽家として指揮や演奏、メルボルン大学での講義、そして小規模な楽譜輸入業も営んできた。氏のメインの楽器はトロンボーンである。理系出身者やエンジニアが多いこの趣味の愛好者の中で、音楽を生業としてきた方は珍しいと思うが、氏は音楽でキャリアを積んできたことに誇りを持っており、またその全てを愛していたと語ってくれた。



若き日の Rob 氏 (1983 年)

氏は 1981 年に結婚して 1985 年に長女が誕生し、更に 2 女に恵まれて 3 女の父となった。ちなみに次女は日本の TDL や USJ でも活躍された女優であり、長年日本に住んでいたため日本語も堪能だそうである (自宅にお邪魔した際に、同居しているというその次女 Stephanie さんは不在でお会い出来なかったのは、実に残念だった)。そうして子育てに追われ、同時に氏のキャリアは上述の通り拡がりを見せて、大変忙し

くなっていった。やむを得ず SWL とアマチュア無線の活動は数年間は後回しになったが、2001 年に 3 ヶ月間の長期休暇を取り、片付けていた無線機はテーブルの上に再び並べられ、アンテナは再び空に掲げることが出来た。



Rob 氏と愛する 3 人のお嬢さん

氏はその後よりゆったりしたライフスタイルを求めて、2012 年に Mount Evelyn に引っ越した。18 ヶ月間理想の家を探し、現在の家を見つけたという。幸いこちらは以前の住居よりも RF ノイズが低く、DX に適していると考えている。



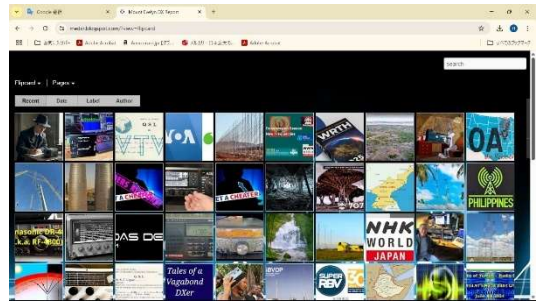
メルボルン郊外、Mount Evelyn にある氏の自宅

ところでオーストラリアは世界における DX 大国の一つというイメージを持っていたが、実際には近年 DXer の数が急減しているようである。この点について尋ねると、ARDXC と NZL DXL はどちらも会員のほとんどが 60 歳以上という世界共通の課題に直面しており、かつ新規入会者がいないので、ARDXC は最大規模だった 1970 年代と比べて 10 分の 1 に縮小したそうである。過去 10 年間で他の DX クラブが消滅したように、両クラブも消滅してしまうのではないかと懸念していた。そもそも DXer 数の減少は、短波放送自体の衰退が最大の要因であると思うが、中波も安穏と構えていられない状況だ。

そんな中で Rob 氏はこの趣味をどう楽しもうとしているのだろうか？ きっと氏の活動には見習うべきものがあるに違いない。Rob 氏の活動を観察して気づいたこと、またインタビューで頂いた回答を基に、私なりに考察したことを、以下にまとめてみた。

一つ目はブログでの情報発信である。氏は 2012 年にブログ「Mount Evelyn DX Report (MEDXR)」を開始したが、読者数は驚くほど増加しているそうである。氏がそれを立ち上げたのは、ブログを通して氏の有する DX 知識を還元したいという目的であった。そして実際氏のブログは更新頻度も高くまた内容も充実している。ちなみにブログ以外では「The Spectrum Monitor Magazine」(旧 Monitoring Times) に年 3 回(4 月、8 月、12 月)「短波リスニングの世界」というコラムを執筆している。これ

らの活動はこの趣味の世界の活性化であり仲間への刺激に寄与していることは間違いのないが、同時に自分自身を鼓舞することにも繋がっているのだろう。



Rob 氏は 2012 年に自身のブログである Mount Evelyn DX Report を開始。

以来アクティブに情報を発信し続けている

二つ目は屋外で楽しむ DX 活動である。私は中波がメインなので海岸で行っているが、氏は山で行っている。これは氏にとっては海辺よりも山の方がアクセスしやすく、速いからという理由によるものである。ノイズの少ない外に出ればもっともっと楽しめる～しかもワイヤーアンテナを繋いだポータブルラジオでも簡単に受信出来る～氏はこれを YouTube 動画を通じて自らのナレーションで紹介し、やはり仲間へ刺激を与えている。





頻繁に野外に出掛けて

ローノイズの環境下での DX を楽しむ

三つ目は SWL とアマチュア無線の並行した活動である。どちらか一方だけではスランプに陥ると煮詰まってしまうし、また氏の関心事である電波伝搬を常時ワッチする意味でも、どちらかで見つけた事象をもう一方に応用することが出来、意義深いのだと氏は語る。



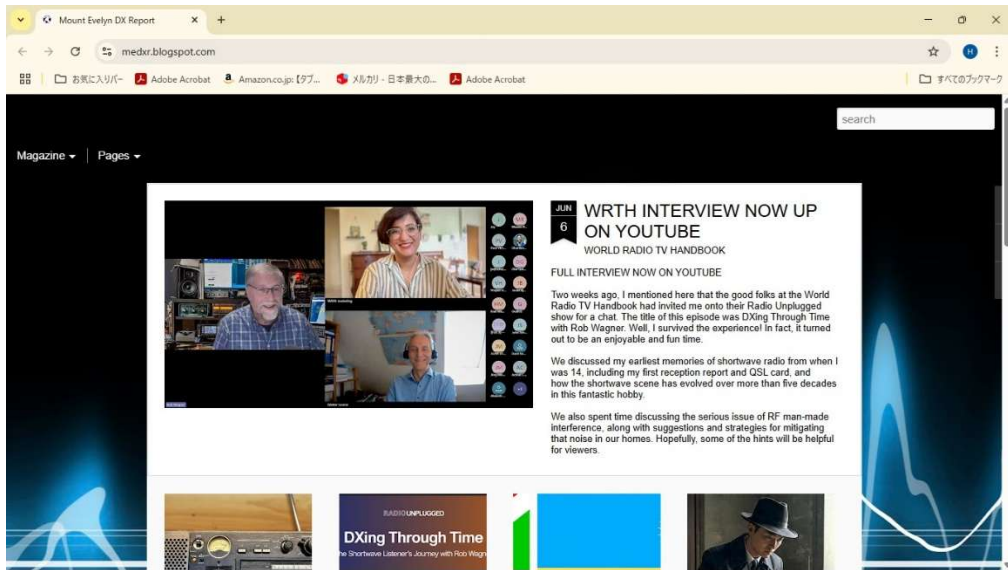
氏のシャックは母屋と離れた

別棟にある

このように総括して気が付くのは氏の旺盛なチャレンジ精神であり、新たな技術を進んで研究し取り入れようとする柔軟な姿勢である。例えば先述の通り受信機では SDR と言われるとすぐに導入し、研究して使いこなそうとしている。アマチュア無線

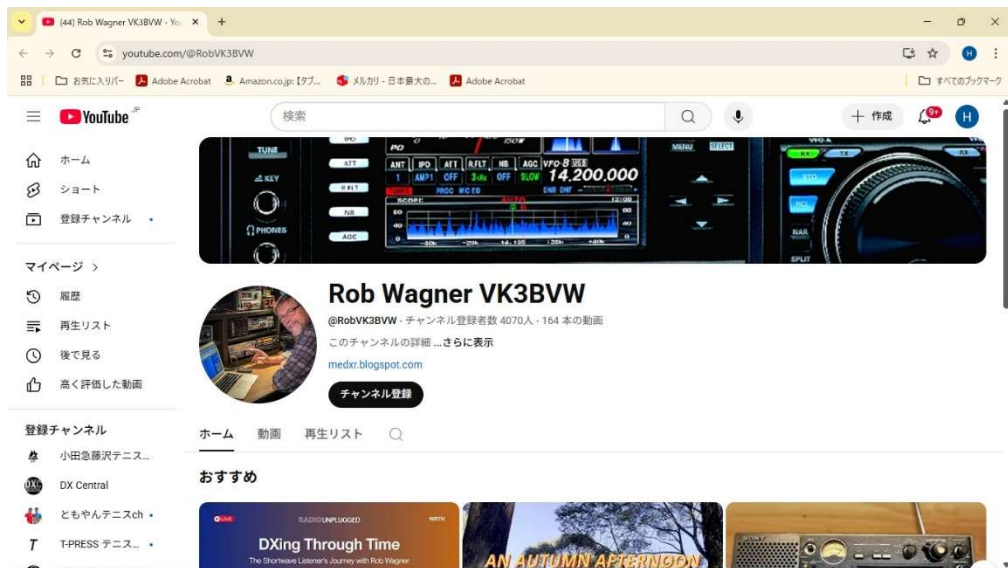
では FT8 や FT4 などの新しいデジタル伝送方式、そして WSPR ビーコンなども研究を進め、自身の楽しみとして使いこなしている。YouTube 動画をナレーション付きで作ってしまうのも、若い人ならともかく Rob 氏の年齢から始めるのはなかなか出来ることではない。勿論新しいことが出来るようになるのは、そこにはまた大きな楽しみがあるのも事実である。Rob 氏より若い私自身もまだまだ出来る筈だし、見習ってチャレンジしていきたいと思う。

氏は数年前に前立腺がんを患ったが、放射線治療によって幸いにも寛解し、今はまた元気に活動している。DX やその他の趣味(ちなみに写真も趣味としており、Yarra Ranges 写真協会の会長として多くの時間を管理業務と会員のための活動の企画に費やしている)、そして家族と過ごす時間が、闘病の困難な時期に大きな支えになったという。私も含め人生の後半に差し掛かっている多くの同志にとって、趣味を楽しむ新しいことを学ぶということは、健康そして若さを維持するという観点から非常に重要なことであり、それを実践している氏へのインタビューは、大いに示唆に富んだものであった。



Rob 氏のブログ “Mount Evelyn DX Report”

www.medxr.blogspot.com



Rob 氏の YouTube Channel はこちら

<https://www.youtube.com/@RobVK3BVW>